

秋田県立大学 図書館だより



No. 5 2002.10

》》》》》》》》》 目 次 《《《《《《《《《《

| | |
|---|---|
| 紙魚もどきの独り言 総合科学教育研究センター長 佐々木 久春 | 1 |
| 読書と思索 機械知能システム学科長 高橋 義雄 | 3 |
| 資料の活用：参考文献、引用文献の見方 | 5 |
| 図書館利用案内：著作権について | 7 |
| お知らせ | 8 |



紙魚もどきの独り言

総合科学教育研究センター長 佐々木 久 春

「紙魚（しみ）」というほど本の虫ではない、だが文学と長く付き合ってきたのだから本なしには暮らせない。「もどき」を付けておくくらいがよいところか。

私の出身大学である東北大学の図書館は、もと片平丁にあって、昔風のいかめしい造りで雰囲気もいかめしかった。でも閲覧室に入っていくと何となく落ち着いて、学部学生のときは用も無いのによく行った。それが学部を終えるとすぐ、国文学科の助手になったので、今度は書庫の方に入出入りするようになった、というよりせざるをえなくなったと言った方がよいかも知

れない。当時の教授は、後に「写生説の研究」3部作で学士院賞を受けられた北住敏夫先生である。週に3回の講義と月1回の会議のときだけ、研究室に来られる。家で書齋にこもることが多いので大学に出るとしばしば「ああ佐々木君、これこれこれこれの本を書庫の5階から借りてきておいてくれ」とおっしゃる。先生の声は低くて小さい。でも、どういうわけか、問い返すということができなかった。私だけでなく、教授に対しては何とも、こういう風だったのである。先生は静かな方だったが、恐ろしいという感じではなかった。

たとえば、美術史のK教授の研究室に行った私の友人が「先生に3年前から貸し出し中の本を、借りに参りました」と言うや、「わしが使とる」と雷を落とされ引き下がって来たということだった。東洋史のS教授は、授業中の隣り合った男女学生が小声で話をすると「目ざわりじゃ、離れい」と一喝された。このような恐ろしさはなかったが、問い返すことはできなかった。

さて、キーワードは、「5階」と全8文字位の書名「これこれこれこれ」のうち聞き取れた2、3文字ほどである。それから大切なのは、今およそ先生が執筆されている論文は何か、ということであった。天井の低い、薄暗い書庫をかけまわり、大汗をかいてその1冊を見つけ出すのであった。馬鹿ばかしいと言われるかもしれないが、おかげで私は図書館の本の所在にくわしくなった。文献についても、こういうとき何を、どこを見れば良いか、分かったような気がした。この「気がした」というのが、その後の歩みに魔法をかけるようなものだと思う。

旧制大学の蔵書は多かったし、それに小宮豊隆先生のお力で東北大に入った狩野文庫が、和書だけで1フロアーを占めていた。秋田の出身で、旧制一高校長、京都帝大初代学長であった狩野亨吉先生が、小宮先生と共に漱石の弟子で、『猫』のモデルだったことはよく知られているが、蔵書が東北大にあったというのは幸いだった。かつて助教授以前の北住先生は東北大学図書館の司書であった。「5階」というキーワードが、先生でなければ出てこないということに気が付いたのも、後の事である。書庫博捜もやりがいがあった。

そして、私の学位論文『近松文芸の研究』の核になった穂積以貫の『経学要字箋』は、この狩野文庫で見つけた和書である。穂積以貫は近松門左衛門の属していた竹本座の顧問で、近松芸術論『難波土産・発端』を聞き書きした人である。とすれば二人の交わりは浅くなかっただ

ろうと思った。近松の作品の思想的骨格は儒学であるが、幕府の教学となった林羅山の朱子学とはどうもちがう。近松の生きた元禄期は、町人儒者・伊藤仁斎、東涯の古義学が流行した、この考え方は似ている。一方穂積以貫は伊藤東涯の弟子で、京都の師のもとを離れ大阪で儒学者として独り立ちした。近松作品にはこの以貫の影響もあるのではないか。以貫の思想は『経学要字箋』から明確に読み取ることができた。

とすれば、以貫はいつ東涯に入門し、いつ大阪に移ったのか、次にこれを知らなければならぬ。九州大学の中村幸彦教授の示唆で、先生が前に勤められた、確か司書もなされた天理図書館に行った。天理図書館も日本学、東洋学資料の宝庫である。1970年代後半は天理に限らず図書館の閲覧は自由であって（そういえば寺社の国宝拝観も自由であった）、目録を見て、これとあたりをつけて借り出してページを繰っていった。東北大の書庫を思い出しながら。半紙を横長に綴じた入門記録らしい『初見帳』という1冊を見つけ、正徳4年の項に「9月27日 一、穂積善兵衛 秀庵 介 姫路の人」とあった。善兵衛こそ以貫の本名で、この時期から近松の居た竹本座に出入りしたということが分かった。その後で姫路に行き、穂積以貫から7代後の穂積勝次郎さんにお会いしてたくさん和算の文書を見せていただきその奥書などから、以貫の大阪移住の時期、竹本座顧問辞退の時期などを見つけることができた。

ところで、私の父親は、戦前に宮城県立図書館の司書をやっていた。父は十代のころ、家が落ちぶれて、しかし苦学して進学したらしい。まず父の兄が二高から東大理学部を出るまで父が働き、次に父が山高から東北大の法文学部を出るまで交代して面倒をみたらしい。父はトットツの電信技士の資格を取り、時事新報でも働いていた。社の夜勤で暇をみて英語の勉強をしていると、菊池寛がふらりとやって来て教えてくれることもあったという。山高では年を食っ

ていて、オンケルというあだなをもらった。亀井勝一郎が同級だった。法律を勉強して大学は出たけれど、昭和10年代の大不況で、心ならずも図書館の臨時雇いから司書になった。

それはともかく昭和15年より前だったと思う、仙台の向山虚空蔵菩薩の下に家があったが、毎日徒歩で父は、鹿落ち坂を下り、お霊屋橋から米ヶ袋、東一番丁を通って今の勾当台公園にあった図書館にかよっていた。私は兄と5歳もちがって兄に相手にされなかったが、父親42歳の末子だから当時の早い人では孫のようなものだったかも知れない、よく図書館に付いて行って遊んでいた。いかめしくて、板張りの廊下に塗った油の匂い、湿ったかび臭い雰囲気はすでに大学生以前になじんでいた。7月は楽しみだった。



読書と思索

システム科学技術学部

機械知能システム学科長 高橋 義雄

人と人との出会いはその人の人生にとって最も大切なものの一つであると同様に、人と本とのそれも非常に尊いものとなることを実感している。本の中に登場する人物は、すべて自分が歩んできた道と違う道を歩んできており、自分の人生の道しるべとして大いに参考になる尊い存在である。

私の好きな言葉に、故事成語の「(人間万事)塞翁が馬」がある。表面的には「国境のトリデ近くにいた爺さんの馬」を表しているが、「人間の幸、不幸はわからぬものだ」という意味であり、日本のことわざの「禍福はあざなえる縄の如し」に相当する言葉である。

私が、小・中学生の時に国語が苦手が好きではなかったのに、高校時代に漢文を習ってからは、漢字の意味の広さ、深さなどが面白く感ずるようになった。それから後、唐時代の張継が

図書館に近い一番丁の北に三越デパートがある。その裏だと思うが空地があって、そこにサーカスのテントがかかった。ある年は木下サーカス、次の年は木暮サーカスなど、朝に父に連れられ置いていかれ、入れ替えが無かったのだと思うが、おにぎりを食べ、飽きるまで見ていた。飽きると小屋を出て、ライオンなどの動物の檻をのぞいたりしてから、ぶらぶらと図書館に戻った。図書館とサーカスの取り合わせは、どう見ても変だが、私の中では今もって切っても切れない関係にある。大学時代に古い図書館に居心地良さを感じたのも幼児・少年時代の体験のせいかしらん。——おや、紙幅をとうに越えてしまったらしい。

書いた「月落烏鳴霜满天 云々」の楓橋夜泊に接し、漢文の自然の静粛さ、美しさ、雄大さなどが好きになってしまった。

そんな環境の中でたまたま出会ったのが論語であった。孔子は二千五百五十年以上前、中国山東省魯の国に生まれ、春秋時代という乱世に活躍した世界の四聖人の一人であり、あらゆる人から学び続けた日進月歩の人、偉大なりアリストと言われている。江戸時代は論語だけを読んでいたればよかったかもしれないと聞いたことがある。しかし、どうでしょう。日本人の教養・思想に大きな影響を与えている。論語は伝説によれば日本に渡来した最初の書物の一つであり、孔子の死後にまとめられたものであるが、今でもどんな世界にでも当てはまることの多いことには驚くばかりである。実践を伴わない学問は本当の学問でないと説いている論語は、あらゆる

る教育のバイブルであり、学問の世界に当てはまるのは当然であるが、政治の世界でも、スポーツの世界でも人間が生きていく世界の全てに当てはまるものと感じることができる。ひとり一人が論語をどのように解釈してもよろしいと言われているので当然かもしれない。

政治について紹介すると、弟子の子貢に政治のあり方を問われた孔子は、「食糧備蓄、軍備充実、人民の信頼」を挙げ、さらに、この三つが保持できない場合、まず何を捨てるかを問われ、真っ先に軍備を挙げ、次に食糧備蓄、何よりも大切なのは人民の信頼で、これを失ったら一切の政治はないと説いている。また、子曰く「民可使由之。不可使知之。(民は之を由らしむべし。之を知らしむべからず)」といい、民衆からはその政治に対する信頼をかちうることはできるが、政治の内容を知らせることは難しいという事実も述べている。「この橋は俺が架けた。この道路は俺が造った」などという政治家は結局「民の信を失う」結果になるのも、「不可使知之」の言葉をとると、今でもそうだなと思わざるを得ない。

スポーツの世界においても、「之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず」という言葉が当てはまる。超一流のオリンピック選手のほとんどは「楽しんできます」と言うではありませんか。「好きこそ者の上手なれ」はもっともだが、愛好することは、楽しんでやることに及ばないのである。

さらに、工学を学ぶ私自身の規範とした論語を、自分なりに纏めたものを示してみる。工学を学ぶ態度として、「匹夫も志を奪うべからず」は、学ぶときには、よるべき大樹を自分自身の中に植え、強い意志・情熱・ロマンを持って打ち込めと読む。「君子の儒と為れ。小人の儒と為ること無かれ」は、学問をするには、その道のプロになることを目的にすべきであり、常に問題意識、既成の価値に疑問を持ち、新しい解決法、価値を自ら創り出そうとするプロになる

ことと解釈する。

学生を指導する態度として、「学びて思わざれば則ちくらく、思いて学ばざれば則ち殆し」は、学び、思索する、そしてまた学び、また思索する。そうした段階を経ることによって知識は次第に内在化し、自分の内に確かなものとして集積される。読書のみにつけて思索を怠ると知識は身に付かない。その逆も同じである。本を繰り返し読むと、その度に分からなかったことが分かってくる。読書と思索は車の両輪である。「まず之を富まさん。次に之を教えん」は、学生の研究環境の充実が第一である。そのためには学生の褒めるべき点は徹底的に褒めてやる気を出させ、学生が持っている無限の才能を引き出す雰囲気をつくると説く。「人の己を知らざるを患えず、己の能無きを患う」は、自分を認めてくれる人がいないことを気に掛けず、認められるだけの能力を身につけるように勤めよと説く。二十一世紀は、患うというよりは、プラス思考で、エンジニアは自分の眼力と見識を積極的に売り込む方がよい。

工学を学ぶ楽しさとして、「故きを温めて新しきを知る。以って師となるべし」は、過去の技術は多くの人の知恵の集積であり、したがって科学技術史を学べば今の問題を解くアイデアが見つかることと読める。今を生きるために過去を生かすことにより、新しい技術が誕生し、工学が大いに進歩発展することになる。「楽しんで憂いを忘れ、老いの将に至らんとするを知らず」は、物事を楽しんでやるが一番だ。心配事も年をとることも考えなくなってしまうからということですが、知る、好む、楽しむことは工学を学ぼうとする情熱や意欲の積極姿勢を誘発し、結果としてメリットを見いだすプラス思考の姿勢につながる。特に「ものづくり」を主とする工学は、楽しみながら学ぶということで工楽と書きたい。

資料の活用

参考文献、引用文献の見方

レポートなどを書くための資料を探す方法として関連する内容の図書や雑誌論文に掲載されている参考文献や引用文献からたどっていくという方法がありますが、独特な記述方法がなされていてわかりづらいものもあります。具体的な例をみて文献の見方を理解しましょう。

◇図書の場合

例1) 日本図書館協会施設委員会編 『大学図書館建築 第10回図書館建築研修会』

日本図書館協会 1986

例2) Knorr-Cetina, K.D. 1981. *The manufacture of knowledge*. Oxford:Pergamon

例1は「著编者」、「資料名」、「出版社」、「出版年」の順に記載されています。例2では「著编者（カンマを境にして姓・名の順になっています）」、「出版年」、「資料名」、「出版地：出版社」の順に記載されています。

図書の場合は、上で挙げた項目のどれかが記述されていないときもありますが、大体は例のような感じになります。

◇雑誌の場合

例3) 酒井伸一, 水谷聡, 高月紘: 溶出試験の基本的な考え方, 廃棄物学会誌,

第7巻, 第5号, pp.383-393 (1996)

例4) Bavelas, J.B. 1978. The social psychology of citations. *Canadian*

Psychological Review 19:158-63

例3は「論文著者」、「論題」、「雑誌名」、「掲載巻号」、「掲載頁」、「発行年」の順に記載されています。例4は「論文著者」、「発行年」、「論題」、「雑誌名」、「掲載巻：頁」となります。

例示からわかるように、記載されている情報としては「論文著者」、「論題」、「雑誌名」、「掲載巻号」、「掲載ページ」、「発行年」といったところが主です。ただし「論題」は省略されて記載されていないことが多くあります。

また、「雑誌タイトル」にしても、欧文誌は正式名称ではなく、略形で記載されていることがあります。

例5) J.Shappir, A.Anis, and I.Pinsky, *IEEE Trans.Electron Deveces*. 33, 442 (1986)

例5は「論文著者」、「雑誌名（略形）」、「掲載巻」、「頁」、「発行年」となっており、「論題」は記載されていません。

雑誌名の略形から正式名称を知りたい場合は、次のような資料を使うと便利です。

Alkire, Leland G 2000. *Periodical title abbreviations* 2 vols.

Detroit: Gale Research Co

(本荘キャンパス所蔵 請求記号027.5:P42)

この資料では雑誌の略形から正式名称を導き出したり、正式名称から略形を知ることができます。これから例5の雑誌の正式名称が『IEEE Transactions on Electron Devices』だということがわかります。

引用文献や参考文献の見方がわかったら資料を探してみましょう。本学にない資料でも所蔵している他の機関から論文のコピーを取り寄せたり、本を借りたりすることができます。(学内者のみ。実費がかかります。) 資料を入手するための申込書を記入する際には、先に掲げた文献の見方を参考にして、必要事項をきちんと記載するようにしてください。

申込書の記載例 (例 4 の場合)

| 文献複写申込書 | | | | 申込日 _____ | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|---------|--------------------------------|--------------------------------------|----|-------|-------|
| 図書・情報センター長 殿 | | | | | | | |
| この申込みによる著作権に関する一切の責任は申込者が負います。 | | | | | | | |
| 申込機関 | 機関名: 秋田県立大学 | 機関登録番号: | 依頼先 | | | | |
| | 住所: | 担当者: | <input type="checkbox"/> 大 | | | | |
| | 電話: | | <input type="checkbox"/> 国会図書館 | | | | |
| 申込者 | 氏名: ① | 講座: ② | 連絡先(内線): ③ | 料金計算 | | | |
| 誌名・書名: | ④ Canadian Psychological Review | | | 種別 | 数量 | 単価(円) | 金額(円) |
| | | | | 電子複写 | | | |
| | | | | 基本料 | | | |
| 年 ⑤ | 巻 ⑥ | 号 ⑦ | ページ ⑧ | 包装料 | | | |
| 1978 | 19 | | 158 ~ 163 | 送 料 | | | |
| 著者: | ⑨ Bavelas, J.B. | | | 通 信 費 | | | |
| 論題: | ⑩ The social psychology of citations | | | 消 費 税 | | | |
| 典拠: | ⑪ | | | 合 計 | | | |
| 備考 | | | | 連絡欄 | | | |
| | | | | <input type="checkbox"/> 所蔵館見当たりません | | | |
| | | | | <input type="checkbox"/> 書誌事項不一致・不十分 | | | |
| | | | | <input type="checkbox"/> その他() | | | |
| 太線の中をできるだけ詳細に記入してください。 | | | | | | | |
| 秋田県立大学 図書・情報センター | | | | | | | |

- ① 申込者の氏名
 - ② 申込者の所属
 - ③ 申込者の連絡先
 - ④ 雑誌名 (できるだけ正式名)
 - ⑤ 発行年 ⑥ 巻 ⑦ 号
 - ⑧ 論文の掲載頁
 - ⑨ 論文著者
 - ⑩ 論題
 - ⑪ 典拠資料 (情報源)
- ※例 4 では⑦は記載されていません。

雑誌で似たような名前のもので多くある場合には、出版社や I S S N (国際標準逐次刊行物番号) と呼ばれる資料独自の番号を調べて記入すると、どの雑誌のことなのか探しやすくなります。

I S S N を調べるには次のような資料が役立ちます。

Ulrich's international periodicals directory New Jersey : R.R. Bowker
(秋田・本荘所蔵 請求記号 027.5:U62)

国立国会図書館収集部編 *国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録*
東京 : 国立国会図書館 (紀伊国屋書店発売)
(秋田・本荘所蔵 請求記号 027.5:Ko)

国立国会図書館収集部編 *国立国会図書館所蔵外国逐次刊行物目録*
東京 : 国立国会図書館 (紀伊国屋書店発売)
(秋田・本荘所蔵 請求記号 027.5:Ko)

図書館利用案内 — 著作権について

ここでは図書館によく寄せられる質問について掲載しています。これ以外の細かい点やわからないことについては図書館の職員にお尋ねください。

Q 1：図書館の資料をコピーするときに、「複写申込書」を書くようにいわれたのですが、どうして記入しなければいけないのですか？

A 1：図書館の資料がコピーできるのは著作権法によって許可されているからです。複写申込書を書いてもらうことは著作権法が適切に守られているかどうかの確認を行うために必要なのです。

Q 2：自分のノートのコピーであれば、「複写申込書」を記入しなくてもよいのですよね？

A 2：確かに自分のノートのコピーに関しては、本人の著作物となりますので申込書の記載は必要ありません。

ただし図書館内のコピー機でコピーできるのは、図書館で持っている資料となっていますので、個人のノートや資料を図書館内のコピー機でコピーすることはお断りしています。

実際に申し込みをするときは、大体つぎの点に注意するとよいでしょう。

- ・コピーするものが図書館の資料であること
 - ・目的が調査、研究のためであること
 - ・公表された著作物の一部分であること
 - ・一人につき一部のコピーであること
- (第31条)

Q 3：図書館の資料を借りてコンビニなどにあるコピー機を使ってコピーする場合も「複写申込書」の記入をしなければいけないのですか？

A 3：図書館内でコピーする場合とは異なりますので必要ありません。

ただしコンビニなどにあるコピー機を利用する時にも著作権法で私的に又は家庭内などの限られた範囲で使用する場合に限る（第30条）などと決められていますので、注意するようにしてください。

Q 4：ビデオを借りたかったのですが断られました。なぜダメなのですか？

A 4：大学図書館においては映画の著作物を貸し出しすることが認められていないからです。（第38条5項）ですからビデオだけではなく、DVDやLDも貸し出しできません。館内で利用するようにしてください。

Q 5：CD-ROMやFDを借りることはできますか？

A 5：上記のビデオの貸し出しに関する質問の回答にあるように、そのCD-ROMやFDに映画の著作物と思われる部分があると貸し出しはできません。また、映画の著作物が含まれていなくても、プログラムの著作物が含まれていて、該当のCD-ROMやFDを使用する際に、コンピュータにインストールしなければ使用できないようなものについては貸し出しできません。

お知らせ

◎国立国会図書館オンライン蔵書目録（NDL-OPAC）について

関西館の開館にともない、国立国会図書館のオンライン蔵書目録が従来のweb-OPACからNDL-OPACへと生まれ変わりました。

NDL-OPACでは図書だけではなく、雑誌新聞や規格などが検索できるようになっています。また、来館できなくても受けられる遠隔サービスも行われています。

詳細については国立国会図書館ホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ

<http://www.ndl.go.jp/>

NDL-OPACについて

http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac_zousyo.html

このことにより、これまで本学図書・情報センターのホームページで学内限定利用とされていた「雑誌記事索引」が学外からでも利用できるようになります。しばらくの間は提供されるデータの件数が限られますので、全件データが必要な時には図書館カウンターまでご相談ください。

◎蔵書点検について

秋田キャンパスでは8月20日から8月23日までの4日間、本荘キャンパスでは8月26日から8月30日までの5日間を使ってそれぞれ無事、蔵書点検を終えることができました。ご協力ありがとうございました。

秋田県立大学 図書館だより No.5 2002年10月発行

秋田県立大学 図書・情報センター (URL:<http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib.html>)

●秋田キャンパス

〒010-0195

秋田市下新城野字街道端西 241-7

TEL018-872-1561 FAX018-872-1674

E-mail:a_library@akita-pu.ac.jp

●本荘キャンパス

〒015-0055

本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2049 FAX0184-27-2185

E-mail:h_library@akita-pu.ac.jp

*ご意見・ご要望等をお寄せください。
